

IMF サーベイ

IMFC ターマン議長インタビュー

IMFC ターマン議長、雇用と成長を重視

IMF サーベイ・オンライン

2013年4月21日



IMFCのターマン・シャンムガラトナム議長は、成長と雇用創出が世界の経済政策担当者の最優先課題だと述べた。（写真 IMF）

- 成長と雇用を重視する必要がある
- 先進及び新興市場国・地域の双方で構造改革が不可欠
- 財政政策を調整し、投資家の信認の毀損を回避

ワシントン DC で開かれていた国際通貨基金（IMF）と世界銀行の会合が閉幕した。各国の政策担当者は、政策の焦点を持続的成長と雇用創出に早急に改めて絞る必要があるとの認識を共有した。

シンガポールの副首相で IMF の政策諮問委員会である IMFC の議長を務めるターマン・シャンムガラトナム氏はインタビューのなかで、経済政策の形成にあたり、世代間格差といった中・長期的な課題をより重視するよう各国に求めた。

IMF サーベイ: ターマン大臣、雇用と成長をより重視しなければならないとおっしゃいましたが、IMFC の主な提言は何でしょうか。

ターマン: IMFC は、短期的視点のみではなく長期的な視点を持つことを提言しています。長期的観点に立った政策なくしては、加速は期待できません。また、こうした政策では何よりもまず、マクロ経済調整ではなく雇用と成長に焦点を絞らなければなりません。

適切な規模の財政赤字或いは QE（量的緩和政策）以上に内容が重要です。成長志向の政策を追求しているか。世界中、特に先進国・地域で取り残された若者のための雇用創出に貢献するような政策を行っているか。

危機からの回復の第一段階では、調整措置を前半で大掛かりに行うなど焼き畑式な調整が少々多すぎました。しかし、現段階では、雇用創出と民間投資家の信認の回復につながるような調整を重視すべきだとの強い意見が示されました。

すなわち、財政調整なら何でも良いというのではなく適切な税制措置の実行を意味しません。民間の信認を毀損するならば増税を避け、歳出カットが、影響を受けるべきではない人々に悪影響を及ぼすならその歳出カットは回避すべきです。つまり、調整と危機後の回復をどのようにするか、一段と鋭い視点に立った洞察力を持つ必要があります。

IMF サーベイ: 春季会合の最大の成果は何でしたか。

ターマン: 二つあります。ひとつは、大きな意見の相違はなかったということです。非常に有意義な議論が行われ、同じ立場に立つことができました。どのような立場かといえば、今後、構造改革が不可欠であるということ。短期的のみならず中期的な財政の信認を重視しなければならないこと。短期的というのは、これが長期的な財政健全化パッケージの一部であることではじめて意味をなします。

緩和的な金融策など一つの政策のみに過度に依存してはならないという強い意見も聞かれました。依然としてこれは必要です。しかし、同時に中期的な財政の信認と構造改革にも取り組まねばならずそのペースを速めなければなりません。さもなくば、その効果はあまり期待できないでしょう。

これは、先進国・地域のみならず新興市場国・地域にも当てはまることであり、新興市場国・地域については、あらゆる可能性を最大限に生かし成長を遂げ、そして潜在成長力を向上させるために、構造改革を非常に重視する必要があります。先進国・地域では、通常の経済成長に回帰し、生産性を上げ、特に若者に雇用を提供する方法を見つけるために構造改革が重要です。

IMF サーベイ: 民間部門及び公的部門のバランスシートの修復が大きな焦点でした。先日、ターマン議長は、「社会的バランスシート」という新たなコンセプトについて話されました。詳しく説明していただけますか。

ターマン: 社会的側面を見ると我々は二つの大きな課題を抱えており、社会的側面は経済政策に組み込まれています。

第一に、極めて深刻な世代間格差という問題がありその深刻さは増しています。8~10年後そしてそれ以降をみると、先進国・地域の財政の問題の最大の問題がまさに世代間格差です。

まもなく退職を迎えるベビーブーム世代そして既に退職した人々に約束された政治的コミットメントのための資金が必要です。しかし資金はありません。そうなると、コミットメントの切り詰めを行うか、増税という手段を検討しなければなりません。前者については、公平・公正に行う必要があります、貧しい人や中所得者層を対象にすることはできません。この問題には真摯に向き合う必要があります、さもなくば年齢コーホート内、そして世代間で大きな不公平が生じる可能性があります。

これは大きな問題です。20年前ならばこの質問には「若者に払わせれば良い。高齢者は一生懸命働き戦争を体験したのだ。その権利がある」と答えたでしょう。しかし、現在、この質問の答えを考えると、若い世代の暮らし向きはまもなく退職する世代より良いかどうかは不透明です。一部の国やより多くの人口を抱える社会を地域レベルで見ると、働いている比較的若い人々の年金や医療給付は減額となり、そして実質賃金はまもなく退職する世代よりも必ずしも良くなるらないのです。

ですから我々は、政策の選択や社会的選択肢について極めて率直でなければなりません。

IMF サーベイ: グローバル・ガバナンスにはほころびが見え始めると指摘する声も聞かれました。一部の地域は自ら開発銀行を設立するなど独自の道を歩もうとしています。これについてはどう思われますか。また IMF にはどのような意味があるでしょうか。

ターマン: 基本的に、私はこれが既に存在している諸組織への批判を反映したものとは思っていません。無論、こういった組織がガバナンスや代表権の面で改善することはできますが、これは、世界の変化を反映したものだと考えています。

現在は、ほぼ多極化時代にあると言って良いでしょう。この言葉は長いこと使われてきていますが、全ての極が同等であるわけではありません。むしろ、台頭してきている極が成長の大きな原動力です。彼らは発言権を求め、自分たちの手段を求め、世界レベルの保険のみに頼らず地域レベルの保険取極や開発金融取極など、自分たちの制度や取極を求めています。

世界がいかに複雑かを考えるならば、地域レベルの取極を補完する十分に統治された国際組織が存在することは良いことだと思います。地域レベルの取極は貿易や金融保険で目にすることができます。欧州は、危機を理由にこれに取り組みねばなりません、長期的な観点に立っています。アジアでは、危機後にこれに取り組みましたが、やはり長期的視野に立っています。

IMF とアジアのチェンマイ・イニシアティブや欧州の各種制度など地域金融取極の間の補完性を実現することは、プラス・プラスの世界につながる道だと私は考えています。これはゼロサム・ゲームではありません。国際組織の強化を意味し、同時にその地域を熟知した地域レベルの組織や制度に賢明な役割を用意するということの意味するものであり、こうした組織が追加的資金を必要とする可能性があるということなのです。

関連リンク

[ビデオを見る](#)

[IMFC コミュニケ](#)

[IMF アクション・プラン](#)